

レジオネラ症の防止について

茨城県竜ヶ崎保健所

レジオネラ症とは

- レジオネラ属菌が原因で起こる感染症
(死亡者が発生する感染症)

「レジオネラ肺炎」と「ポンティアック熱」

レジオネラ肺炎, ポンティアック熱ともに, 乳幼児や高齡者, 病人など抵抗力が低下している人や, 健康な人でも疲労などで体力が落ちている人などが発病しやすい。

なお, 人から人への感染はない。

レジオネラ症とは

■ レジオネラ症は1976年(昭和51年), 米国フィラデルフィアのホテルで行われた在郷軍人会(The Legion) 総会参加者が発症した重症肺炎で独立疾患と認められた。

■ 症状

ポンティアック熱・・・発熱, 寒気, 筋肉痛

(一般に軽症で数日で治ることが多い)

レジオネラ肺炎・・・高熱, 呼吸困難, 筋肉痛, 吐き気,
下痢, 意識障害

(急激に重症化し, 死亡することもある)

レジオネラ症とは

- レジオネラ肺炎は、レジオネラ属菌を含んだ直径5 μメートル以下のエアロゾル(目に見えない微細な水滴)を吸入することで起こる気道感染症。
- レジオネラ属菌は土壌、河川、湖沼など自然環境に生息している。冷却塔水、循環式浴槽水などの人口環境水ではアメーバなどの細菌を餌とする原生動物が生息。これらの細胞に取り込まれたレジオネラ属菌は、細胞内で増殖。(20 ~ 50)
- 36 前後でもっともよく繁殖する。

レジオネラ症防止対策

■ 一般的な管理

入浴施設で使用する湯水は、清浄なものを十分供給する

浴槽水は、レジオネラ属菌が検出されないよう水質を管理する

浴槽水は塩素消毒その他適切な消毒を行う

浴槽水は循環ろ過器によって浴槽水を浄化することができる機能を有する浴槽以外の浴槽にあっては毎日1回以上、**循環式浴槽にあっては1週間に1回以上完全に換水する**

浴槽水は、シャワー又は打たせ湯に使用しない

使用時の浴槽は、浴槽水を満たしておく

浴槽内は**循環式浴槽にあっては、1週間に1回以上洗浄を行う**

集毛器その他の浴槽に付帯する設備は、適切に維持管理する

レジオネラ症防止対策

■ 循環式浴槽の管理

循環式浴槽にあっては次に掲げる措置

- ア 循環ろ過器は1週間に1回以上塩素消毒その他適切な消毒を行う
- イ いわゆる循環配管は、1週間に1回以上塩素消毒その他適切な消毒を行う
- ウ 回収槽を設ける場合は、定期的に消毒を行う
- エ 検査結果は3年間保存する
- オ 自主検査で結果レジオネラ属菌が検出されたときは、その旨を知事に報告する
- カ 誤飲防止のため、飲用に適さない旨の表示をする

レジオネラ症防止対策

■ 防止対策の啓発

入浴者の見やすい場所に、浴槽に入る前に身体を洗うことその他入浴者が遵守すべき事項を掲示する

入浴施設衛生管理責任者を定める

シャワー及び打たせ湯は、浴槽水を使用する構造にしない
循環ろ過器を設ける場合は、洗浄がしやすいものとし、集毛器を設ける

回収槽を設ける場合は洗浄がしやすいものとする

徹底した衛生管理

- ・管理記録

各施設で管理計画を立て、洗浄・消毒・換水・清掃などの記録をつける。

- ・水質検査

最低年1回の水質検査を実施し、記録は3年間保管する。

- ・残留塩素測定

レジオネラ属菌の消毒には塩素が有効。測定機器を備え、最低1日3回以上測定する。

条例上の基準と 衛生措置ガイドライン

■ 条例上の基準

濁度・・・5度以下

KMnO₄・・・25mg/L以下

大腸菌群・・・1個/mL以下

レジオネラ属菌・・・不検出

■ ガイドライン

色度・・・5度以下

濁度・・・2度以下

水素イオン濃度・・・

pH5.8～8.6

KMnO₄・・・10mg/L以下

大腸菌群・・・50ml中不検出

レジオネラ属菌・・・不検出

残留塩素濃度の管理

- ・ 浴槽水にあっては $0.2 \sim 0.4 \text{ mg / L}$ になるよう管理すること。
- ・ 残留塩素の測定は、**最低1日3回**は行うこと。
(塩素は様々な要因によって濃度が低下)
- ・ 高濃度塩素消毒を行う際には $5 \sim 10 \text{ mg / L}$ になるよう調整するのが望ましい。
- ・ 浴槽水において 1.0 mg / L 以上になると刺激が強すぎるので注意すること。

入浴施設衛生管理責任者制度

営業者の責務

使用時の浴槽状態の点検と記録

浴槽水の消毒状況(残留塩素)の記録

浴槽水の換水状況の記録

浴槽その他設備の洗浄・清掃等の記録

責任者点検確認欄への記入

レジオネラ症防止のポイント

- レジオネラ属菌の繁殖は、ろ過器・循環配管内に付着した生物膜(バイオフィルム)が原因であることが多い。
- ろ過器, 循環配管, 集毛器等の定期的な洗浄・消毒を行う。
- 貯湯タンクの清掃がおろそかになっている場合が多いので、最低年1回は清掃するよう管理する。

レジオネラ症防止のポイント

- **気泡発生装置** (ジャグジー) , ジェット噴射装置 , 打たせ湯 , シャワーなどはエアロゾルを発生させるので , とりわけ徹底した管理が必要となる。
- **露天風呂** は外界と接しているため , レジオネラ属菌に汚染される機会が多くなる。内湯と同様 , 厳しい管理が必要となる。

レジオネラ属菌が検出された場合

被害が拡大しないように迅速に対処

- ・浴槽など施設の現状を保持したまま、速やかに所轄の保健所に連絡する。
- ・独自の判断で浴槽内等への消毒剤の投入は絶対に行わない。(原因究明協力義務)
- ・入浴施設の浴槽の使用を直ちに中止する。
- ・慌てずに冷静に行動する。

施設側の管理責任

- 万一の場合，人命が失われ，施設側の責任が問われる。
- 施設全体が社会的に相当なダメージを被る恐れがある。
- 適切な管理を行えば防げる。

日常の衛生管理が極めて大切